



B コマンド

この章では、コマンド名が B で始まる Cisco Nexus 1000V コマンドについて説明します。

bandwidth (interface)

インターフェイスに継承帯域幅および受信帯域幅を設定するには、**bandwidth** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

bandwidth {*kbps*}

no bandwidth {*kbps*}

シンタックスの説明	<i>kbps</i>	想定されている帯域幅（キロビット/秒）を指定します。有効な値は、1 ~ 10000000 です。				
デフォルト	1000000 kbps					
コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)					
サポートされるユーザの役割	network-admin					
コマンドの履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>4.0(4)SV1(1)</td><td>このコマンドが追加されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。	
リリース	変更内容					
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。					
使用上のガイドライン	bandwidth コマンドは、現在の帯域幅を上位のプロトコルに通知するだけの情報パラメータを設定します。このコマンドを使用してインターフェイスの実際の帯域幅は調整できません。					
(注)	 これはルーティング パラメータ専用のコマンドです。物理インターフェイスには影響しません。					

■ bandwidth (interface)

例

次に、帯域幅 30000 kbps を設定する例を示します。

```
switch(config-if)# bandwidth 30000
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイスの設定情報を表示します。

banner motd

Message-of-The-Day (MOTD) バナーを設定するには、**banner motd** コマンドを使用します。

banner motd [*delimiting-character message delimiting-character*]

no banner motd [*delimiting-character message delimiting-character*]

シンタックスの説明

<i>delimiting-character</i>	メッセージテキストの先頭と末尾を示すために使用される文字を指定します。たとえば、次のメッセージでは区切り文字は # です。 #Testing the MOTD#
<i>message</i>	バナー メッセージを指定します。40 行以下で 1 行あたり最大 80 文字の制限があります。

デフォルト

デフォルトの MOTD は「User Access Verification」です。

コマンドモード

コンフィギュレーション (config)

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

MOTD バナーは、ユーザがログインするたびにログイン プロンプトの前に端末に表示されます。

メッセージは、40 行以下で 1 行あたり最大 80 文字に制限されます。

複数行の MOTD バナーを作成するには、区切り文字を入力する前に Enter キーを押して、新しい行を開始します。40 行までのテキストを入力できます。

区切り文字を選択するときは、次の注意事項に従ってください。

- *message* の文字列の中では *delimiting-character* を使用しないでください。
- " および % は区切り文字として使用しないでください。

例

次に、バナー メッセージに「Testing the MOTD」というテキストを設定してから表示する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# banner motd #Testing the MOTD#
switch(config)# show banner motd
Testing the MOTD
```

次に、複数行の MOTD バナーを設定して表示する例を示します。

```
switch(config)# banner motd #Welcome to authorized users.  
> Unauthorized access prohibited.#  
switch(config)# show banner motd  
Welcome to authorized users.  
Unauthorized access prohibited.
```

次に、デフォルトの MOTD バナーに戻す例を示します。

```
switch# config terminal  
switch(config)# no banner motd  
switch(config)# show banner motd  
User Access Verification
```

関連コマンド

コマンド	説明
show banner motd	MOTD バナーを表示します。

boot auto-copy

ブートイメージファイルがスタンバイ スーパーバイザ モジュールに自動的にコピーされるようにするには、**boot auto-copy** コマンドを使用します。自動コピーをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

boot auto-copy

no boot auto-copy

シンタックスの説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

イネーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

イメージファイルの自動コピーをイネーブルにすると、Cisco NX-OS ソフトウェアはブート変数によって参照されているイメージファイルをスタンバイ スーパーバイザ モジュールにコピーします。イメージファイルは、アクティブなスーパーバイザ モジュールのローカル メモリに存在する必要があります。キックスタート変数およびシステム ブート変数については、スタンバイ スーパーバイザ モジュール用に設定されているイメージファイルだけがコピーされます。

例

次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュールへのブートイメージファイルの自動コピーをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot auto-copy
Auto-copy administratively enabled
```

関連コマンド

コマンド	説明
boot kickstart	キックスタート ブート変数を設定します。
boot system	システム ブート変数を設定します。
copy	ファイルをコピーします。
show boot	ブート変数の設定情報を表示します。

boot kickstart

キックスタートイメージのブート変数を設定するには、**boot kickstart** コマンドを使用します。キックスタートイメージのブート変数をクリアするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

boot kickstart [*filesystem:[//directory] | directory*]*filename* [**sup-1**] [**sup-2**]

no boot kickstart

シンタックスの説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash または slot0 です。
<i>//directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	キックスタートイメージのファイル名を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。
sup-1	(任意) アクティブなスーパーバイザ モジュールにだけ、キックスタートブート変数を設定します。
sup-2	(任意) スタンバイ スーパーバイザ モジュールにだけ、キックスタートブート変数を設定します。

デフォルト

両方のスーパーバイザ モジュールのキックスタートブート変数を設定します。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

キックスタートブート変数は、起動時にソフトウェアイメージをロードするために使用されます。リロードする前に、デバイスにキックスタートイメージをコピーする必要があります。

例

次に、両方のスーパーバイザ モジュールのキックスタートブート変数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot kickstart bootflash:kickstart-image
```

次に、アクティブなスーパーバイザ モジュールのキックスタートブート変数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot kickstart bootflash:kickstart-image sup-1
```

次に、キックスタート ブート変数をクリアする例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# no boot kickstart
```

関連コマンド

コマンド	説明
boot system	システム ソフトウェア イメージのブート変数を設定します。
copy	ファイルをコピーします。
show boot	ブート変数の設定情報を表示します。

boot system

システム イメージのブート変数を設定するには、**boot system** コマンドを使用します。システム イメージのブート変数をクリアするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

boot system [*filesystem:[//directory] | directory*]*filename* [**sup-1**] [**sup-2**]

no boot system

シンタックスの説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash または slot0 です。
<i>//directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	システム イメージのファイル名を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。
sup-1	(任意) sup-1 スーパーバイザ モジュールだけに、システム ブート変数を設定します。
sup-2	(任意) sup-2 スーパーバイザ モジュールだけに、システム ブート変数を設定します。

デフォルト

両方のスーパーバイザ モジュールのシステム ブート変数を設定します。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

システム ブート変数は、起動時にイメージをロードするために使用されます。リロードする前に、デバイスにシステム イメージをコピーする必要があります。

例

次に、両方のスーパーバイザ モジュールのシステム ブート変数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot system bootflash:system-image
```

次に、**sup-1** スーパーバイザ モジュールのシステム ブート変数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot system bootflash:system-image sup-1
```

次に、システム ブート変数をクリアする例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# no boot system
```

関連コマンド

コマンド	説明
boot kickstart	キックスタート ソフトウェア イメージのブート変数を設定します。
show boot	ブート変数の設定情報を表示します。

